

まずはカメラの機能を知ろう

カメラには、魅力的な写真を撮るための機能が満載。うまく使いこなせば一気に写真がレベルアップします。

もちろん、初めのうちはオート設定でカメラに任せればOK。よく撮る被写体や、撮りたい写真のイメージに合った機能から覚えてみましょう。

本格的な一眼レフカメラはもちろん、手軽なスマートフォン（スマホ）のカメラにも同じ効果の機能があるので要チェック！

絞り (F 値)

光が通る穴の大きさを变えて、カメラに入る光の量を調節します。

F 値が小さいほど光が多く入り、写真が明るくなります。一方で、ピントが合う範囲は狭くなり、他の部分がボケて写ります。被写体の輪郭がボケることで、写真は柔らかな印象に。

ポートレート (人物写真) で比較



主役を目立たせたいときは F 値を小さく！

背景がボケることで、ピントの合った人物が際立ちます。スマホなら、ポートレートモードで簡単に試すことができます。

集合写真は F 値を大きく！

広い範囲にピントが合い、全体がくっきりとした写真になります。人物と一緒に背景をきれいに撮影したいときにも。

シャッター速度

シャッターの開閉速度で、カメラに光を貯める（被写体を捉える）時間を調節します。

この速度が遅いほど、光が貯まって明るい写真に。一方で、長時間被写体を捉え続けるので、その間の被写体やカメラの動きが写真にブレとして現れます。

スポーツの撮影で比較



瞬間を捉えたいときは シャッター速度を速く！

動いている被写体でも、一瞬を切り取って静止したような写真に。手ブレによる失敗もしくくなります。

躍動感を出したいときは シャッター速度を遅く！

カメラで被写体を追いかけてながら撮ることで、背景が流れ、スピード感のある写真に。手ブレしやすいので連写がおすすめ。



伊予高等学校
二宮宏樹さん

森耶真人さん

越智彩希さん

山上凜々さん



1_ スライドを使った分かりやすい講義 2_ どの角度からの光が1番きれいかな 3_ 「この設定はこうして」写真好き同士、世代を超えた交流 4_ 実演する講師のスマホを真剣にのぞき込む 5_ 被写体に角度をつけて立体感を 6_ いつもとは違う目線からパシャリ



講師
竹林 聡さん



◎ PROFILE

永田にスタジオを構える広告制作会社、バンブーデザインの代表。

「プロから学ぶフォトセミナー」は8月1日、文化センターで開催しました。
このセミナーは、写真の技術を磨くことで町の魅力発信に生かしてもらおうと実施したもの。「撮りたい写真によって、適したカメラや撮り方が変わる」と話す講師の竹林さんから、カメラの機能や撮影のポイントについて学びました。座学後の実践では、参加者同士で教わったテクニックを試したり、撮影した写真を見せ合ったりして意見を交換する場面も。参加した八木司さん「鶴吉」は、「きれいに撮影できる光の当て方などが学べてよかった。早速、いろいろな場所で撮影してみたい」と意気込んでいました。
次のページから、皆さんにも簡単な撮影テクニックを紹介します。

特集

あなただけの「まさきいろ」を探しに

魅力的な写真が撮れるのは、特別な場所だけではありません。日常に隠れた松前ならではの魅力、あなただけの「まさきいろ」を探してみませんか。

#まっさきまさきいろ フォトキャンペーン に応募しよう！

撮った写真を誰かに見てもらうのも上達のポイント。
町公式Instagramでフォトキャンペーンを開催中です。
あなたも紹介したテクニックを使って参加してみませんか。
さあ、カメラを片手にすてきな「まさきいろ」を探しに出掛けましょう。

撮影は許可を取ってから

人物やお店などの撮影は必ず許可を取ってから。特に子どもの撮影は保護者の許可も必要です。写真を公開する許可も忘れずに。

マナーを守って安全に撮影を

私有地への無断侵入、路上駐車や撮影スポットの独占は迷惑行為。撮影に夢中になりすぎて周囲への配慮を忘れることのないように。

投稿前に写真の確認を

気軽に情報発信できる一方、それを悪用した犯罪やトラブルも発生しています。身元特定につながるものや、他者の写り込みに要注意。

「#まっさきまさきいろ フォトキャンペーン」

あなたが撮った松前町の魅力的な写真を投稿しませんか。
抽選で5人にプレゼントが当たります。

▶開催期間 11月30日⑨まで

▶応募方法

(1) 町公式アカウント「@masakicho_official」

(次のQRコード)をフォローする。



(2) 自身のアカウントで、ハッシュタグ

「#まっさきまさきいろ」を付けて写

真を投稿する。

▶注意事項

(1) 「#まっさきまさきいろ」を付けた投稿は、町公式アカウントでリポストするほか、松前町勢要覧2020(令和3年2月発行予定)や広報まさきに掲載する場合があります。

(2) 非公開アカウントからの投稿は対象外です。

※ その他の注意事項や企画の詳細は、町ホームページ(次のQRコード)を確認してください。



▶問い合わせ

えひめリビング新聞社

☎ 931-7001 メール ehimeweb@ehimeliving.co.jp

「令和のNew!中予! フォトコンテスト2020」

▶募集期間 令和3年1月31日⑨まで

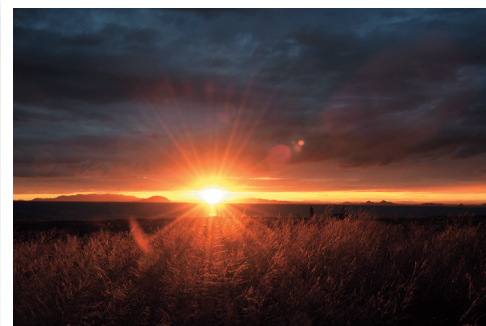
※ 応募方法や注意事項など、詳細は中予地方局商工観光室Instagramアカウント「@chuyonavi」(次のQRコード)を確認してください。

▶問い合わせ

中予地方局産業振興課商工観光室

☎ 909-8760

メール chu-syoko@pref.ehime.lg.jp



仕上がりをイメージしよう

写真を撮るとき、あなたはどんなことを意識していますか。
光の当たり方や被写体の配置で、写真の印象は大きく変わります。

次のポイントを参考に、まずは写真の仕上がりをイメージしてみましょう。

光の当たり方

ポイントはカメラの向き + 被写体の向き。
光が当たることで被写体に陰影ができ、立体感が出ます。

白い紙などで光を反射させることで、被写体への光の当たり具合を変化させることができます。



光が当たらない右側に影ができて、暗くなっている。



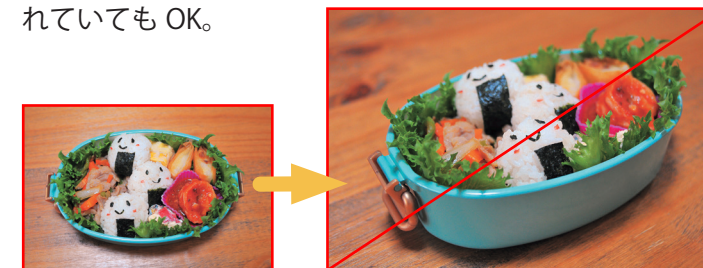
窓からの光を右側から反射させて当てることで、影が消えて全体が明るい印象に。

画面の構成(構図)

どこかで見たような写真はなかなか注目されません。
被写体の配置やカメラの角度を工夫すれば印象的な写真に。

●対角線構図

被写体を画面の対角線上に配置することで、奥行きや動きのある写真に。斜めさえ意識すれば、対角線からずれていてもOK。



普段は上から見下ろす公園の蛇口も、下から見上げることで迫力のある写真に。

カメラを構える高さや角度を変えることで、同じ被写体でも違った印象になります。



●三分割構図

画面の縦と横をそれぞれ3分割し、全体を9分割する構図。交点やライン上に被写体を配置することで、適度な余白が生まれてバランスが良くなります。

